

# 日本における宗教受容史

2月20日2005年 安倍富士男

主要参考文献：世界宗教事典、日本宗教事典（村上重良 講談社学術文庫）を中心に参照した。

知りたいこと：**私たち日本人の「ものの考え方」や「文化」の基底をかたち作る宗教は、いつ頃どうやって日本人に取り入れられてきたのか？**

きっかけ：最近、英語の時間に生徒と英文を読んでいたら、次のような日本人論を英文で読んだことがきっかけ。

「日本人は12月25日にキリスト教のクリスマスを祝い、元旦には神社に出かけ神道を信じ、お盆には帰省ラッシュでふるさとに帰りご先祖様のお墓に参り仏壇に焼香する。生まれた時は神道で（お宮参りをするから）、結婚する頃はキリスト教で（教会式の結婚式をあげるから）、死ぬときは仏教徒として死んでいく（お寺で葬式をあげるから）」

これまで何度か、この手の話は読んできた。ある時は日本人の宗教的無節操さを揶揄する論調（とりわけ日本人が書いた自虐的なものが印象に残っている）で、ある時は、まじめな日本人精神形成論として、またあるときは民俗学の入門書で。皆さんもきっと一度は読んだことがあるだろう。

これを私たちがそれぞれ、どう考えるかは、別として、私たちの宗教観はどのように形作られてきたのだろうか？宗教観と言わないまでも「仏滅に大きな仕事をやるのさげょうとする」そうした自分の気持ちが起きるゆえんはなぜなのか？知りたくなったわけです。たまたまだいぶ前から参考文献の本を少しずつ読んでいたので、なんとか簡潔にまとめておきたい。必要な時は、いつでも参照できるようにしておきたいと思ったわけである。

また、参考文献の著者の言葉を借りれば、

「宗教は、日本文化を構成しているきわめて重要な領域であり、日本文化をその最深部において性格づけていると言っても過言ではないが、その全体像を客観的、実証的に通観する仕事の大半は遺されてきた。」ほんとうに著者の村上氏の言うとおりです。日本を知る、自分を知るためには宗教を知ることが不可欠であります。このことを我が愛すべき生徒諸君にも伝えたいと思うし、一緒に勉強したいと思う訳です。

いつでもプリントして授業で使えるようにpdf化しておきます。

|       | 出来事   | 宗教・精神世界  |
|-------|---|--|
| ウルム氷期 | ウルム氷期 = 7万年前 ~ 1万年前まで続いた最後の氷期<br>氷期で海面の水位が低下したため、陸続きになったユーラシア大陸から古モンゴロイドが北海道経由で東日本に到達する。最初の日本人の原型。  |  |
| 縄文時代  | 縄文時代 = 1万2000年前 ~ 2400年前<br>縄文晩期 新モンゴロイドがユーラシア大陸から九州を経て西日本に到達。徐々に広がるが、東北日本と南西諸島に古モンゴロイドが残る。<br>(残された古モンゴロイドは、アイヌ、沖縄人の原型か)<br><br>「日本人がどのように形成されたか」については人類学的観点から記述した面白い本を入手しました。これは別に資料を作りたいと思います。こちらの参考文献は「日本人の起源」(池田次郎 講談社新書)。 | <b>シャーマニズム</b> (神がかりするシャーマン=生き神を中心) 北方ユーラシア系のが日本に到達<br><b>アニミズム</b> (自然現象にも精霊がやどりそれを崇拜)<br><b>マナ</b> (人間とはまったく無関係な力の存在を信じること)<br><b>呪術</b> (女性土偶の生殖崇拜、抜歯習俗、入れ墨)<br><b>自然崇拜</b> (秋田県大湯などの配石遺構)<br><b>祖霊崇拜</b> (屈葬人骨=宗教概念)<br><b>仏教誕生</b> BC6cに北東インドで発生<br>万物は移り変わるものであり、宇宙、自然、人生を貫く法則について正しい認識があれば、人間は一生の間、何事に直面しても恐れたり、ためらうことはない主張し、この境地に至るための系統的な学習と身体的訓練を行う一派があった。この学派の創始者がブッダ。この思想によれば、神の存在を思いめぐらしたり、現実の苦悩をよそに宇宙や世界の本質を哲学的に思索すること(=当時主流のプラフマン教)は無意味としりぞけた。そのため、プラフマン教から「無信仰者」「無神論者」と呼ばれた。 |
| 弥生時代  | 弥生時代 BC4世紀 ~ 3世紀<br>大陸より渡来人が九州北部に到達(混血が始まる)<br>稲の伝来<br>2世紀頃 シャーマン王 卑弥呼  | <b>陰陽五行説</b> 、BC3 中国で誕生<br><b>原始神道誕生(日本固有の宗教誕生)</b><br>縄文晩期から弥生初期 日本宗教の基本形が完成<br>(アニミズム、自然崇拜、祖霊崇拜、呪術) + <b>農耕儀礼</b> <b>原始神道へ</b><br>原始神道の神は地縁血縁の神(土地神や祖霊中心)<br><b>原始神道は天皇中心ではない(稲の収穫・共同体の安全)が目的</b>  |
| 大和時代  | 4世紀 大和国家の統一   | <b>古代神道誕生(天皇の宗教権威確立)</b><br>大和朝廷の神々が優位に立ち、その他の共同体の神や農耕の神が服属<br>全国土の稲の豊饒をもたらす最高祭司である <b>天皇の宗教的権威確立</b><br>ヤマト政権は「天にある神々」を信仰し、天皇(オホキミ)はアマテラスオホミカミの子孫と位置づけた。その結果、ヤマト朝廷の神は天神(あまつかみ) 服属した氏族の土地神や祖霊などの神々は地(くにつかみ)とされた。これを基礎づける神話と儀礼が整備される<br><b>出雲信仰</b> (大和朝廷に服属した出雲族の神オホクニヌシノミコト 出雲族=大陸との交通要所)<br><b>伊勢信仰確立</b> 5C後半<br>(もともと伊勢国の地方神・農業神をまつた神社 天皇の祖先神アマテラスオオミカミと一緒にまつられる)  |
|       | 渡来人によって大陸から文字・儒教の伝来   | <b>儒教の伝来</b> (孔子の教え)<br><b>道教の伝来</b> (老子の思想) 道教は神道に大きな影響を与える   |
|       | 538年 百済の聖明王、仏具、仏像、経論を献ずる<br>553年 百済より医・易・暦の博士渡来<br>593年 聖徳太子摂政<br>594年 推古天皇、仏教興隆の詔を発する<br>604年 憲法一七条制定、三宝をあつく敬う<br>607年 法隆寺創建   | <b>仏教の伝来</b> (最初は蕃神と呼ばれる)<br>この頃の仏教を <b>飛鳥仏教</b> と呼ぶ(飛鳥仏教=外国から直輸入した仏教)<br><b>陰陽道の伝来</b> (暦博士、易博士、陰陽五行説を伝え、日本在来のト占を駆逐)<br>暦(690年~1684年まで中国の太陰暦採用)<br><b>八幡信仰</b> (八幡神はもともと九州の土地神 6cに仏教と一体化し全国に広まる)<br>(銅の産出地だったため、鉱産、鍛冶の守護神の性格を持つようになる)   |
|       | 蘇我氏全盛(物部氏ほろぶ)   | 蘇我=外来の仏教擁護者、物部=日本古来の占いの擁護者 このあと仏教隆盛へ   |
|       | 645年 大化の改新(蘇我氏ほろぶ)<br>699年 役の小角(えんのおずぬ)伊豆大島へ流される。   | 仏教の個人崇拜から国家仏教へ脱皮<br>役の小角=修験道の開祖<br><b>修験道とは?</b><br>原始社会の山岳信仰に起源を持ち、その後、仏教、陰陽道が融合してできた宗教<br>土着の山岳信仰による修行者や私度僧・聖が山岳で修行し、呪術を得て、民間で呪術祈禱を行った。  |
| 奈良時代  | 710年 奈良の平城京に遷都  |  |
|       | 712年 古事記<br>712年 日本書紀   | <b>古代神道の確立</b>   |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 代   | 741年 聖武天皇 国分寺、国分尼寺建立の詔                                | <b>仏教による鎮護国家思想 日本に国教が成立した1回目(国教=仏教)</b><br><b>神仏習合思想</b> (神道と仏教との合体思想) 平安時代の本地垂迹説へ  |
|   |   | 日本独自の <b>陰陽道が成立</b> (陰陽五行説と道教の呪術が一体化) 陰陽寮、陰陽師   |
|   | 752年 東大寺(総国分寺)の大仏完成                                   | 中国やインドの仏僧が日本を指導   |
|   | 754年 鑑真、律宗を伝える<br>781年 八幡神に大菩薩号が贈られる                  | 中国の仏教が直接日本に到達し指導<br>八幡大菩薩=日本最初の神仏習合神  |
| 平安時代  | 794年 奈良から京都に都を移す<br>798年 坂上田村麻呂、清水寺を建立                | 奈良仏教の衰退   |
|   | 805年 最澄、唐から帰国 天台宗を広める<br>806年 空海、唐から帰国 真言宗を広める        | <b>日本独自の仏教の発展</b> が始まる 空海、堤防工事など社会事業<br><b>本地垂迹説の展開</b> 9c頃 神々はそれぞれ本地であるインドの特定の仏、菩薩が日本に迹(あと)を垂れ、仮に現れたもの(権現)とする考え方<br><b>修験道の展開</b><br>比叡山、高野山はじめ山岳仏教が盛んになる 密教では山で修行すると靈験があるとされるため<br>修験道の霊場が発展(真言密教系=吉野金峰山 天台密教系=熊野大峰山)   |
|   | 894年 遣唐使廃止 風文化が栄える                                    | 賀茂家、陰陽師の世襲化へ 安倍晴明は賀茂家高弟の天文博士この後、賀茂家、安倍家が陰陽道の独占支配<br><b>庚申信仰広まる</b> (道教+陰陽道の信仰)  |
|   | 1124年 中尊寺金色堂完成  | 仏教が東北へ到達し普及 東北では独自の仏教文化   |
|   | 1175年 法然、浄土宗を開く                                       |   |
|   | 1185年 壇ノ浦で平氏滅亡<br>1189年 奥州藤原氏、頼朝により滅亡<br>頼朝により全国支配が確立 |   |
|   | 鎌倉時代  | 1192年 頼朝、鎌倉に幕府を開く<br>(京都から鎌倉市へ) 武士の時代   |
| 1200年 鎌倉幕府、念仏を禁止  |   |   |
| 1224年 親鸞、浄土真宗を開く<br>1227年 道元、曹洞宗を開く<br>1253年 日蓮、法華宗を開く<br>北条時頼、禅宗を厚く信仰し出家した<br>1333年 鎌倉幕府滅亡 |   | <b>鎌倉仏教</b> がおこった背景<br>1 平安仏教(天台宗・真言宗)は貴族と結びつき繁栄、墮落、衰退へ<br>2 平氏滅亡で民衆に現世の無常観広まる 大水や日でりなどの天災多発<br>3 1052年から <b>末法</b> に入ったとする社会不安が民衆に広まり新宗教を希求。   |
| 1334年 建武の新政(鎌倉から京都へ)<br>足利尊氏、征夷大将軍となる   |   | 初代、足利尊氏 天竜寺(嵐山)<br>3代、足利義満 金閣寺(北山文化)<br>8代、足利義政 銀閣寺(東山文化)   |
| 室町時代  | 1467年 応仁の乱おこる   |   |
|   | 1549年 ザビエル、キリスト教伝える                                   | <b>キリスト教伝来</b> カトリックを広めるためにイエズス会から派遣されたスペインの宣教師   |
|   | 1548年 少年使節がローマに派遣される                                  | 大分県ではキリシタン大名、大友義鎮(よししげ)に招かれて布教  |
|   | 1573年 室町幕府滅亡  |   |
|   | 1589年 秀吉 キリシタンを禁ずる                                    | はやくもキリスト教の迫害はじまる  |
| 安土桃山時代  | 1590年 豊臣秀吉、天下統一(京都から大阪へ)                              |   |
|   | 1600 関ヶ原の戦い   |   |
| 江戸時代  | 1603年 家康、江戸に幕府を開く<br>(大阪から東京へ)                        | <b>キリスト教禁教</b><br>キリスト教弾圧に対する抵抗(天草四郎時貞が指導者)   |
|   | 1613年 全国的にキリシタンを禁止 信者追放                               |   |
|   | 1613年 伊達政宗、支倉常長ローマに派遣                                 |   |
|   | 1683年 島原の乱  |   |
|   | 1693年 鎖国開始 ポルトガルの来航禁止                                 | <b>鎖国</b> =海外の思想の流入停滞 国内の思想停滞   |
|   | 1790年 幕府、朱子学以外の異学を禁止                                  | <b>朱子学(儒学)の隆盛</b> =中国の学問研究 日本の研究がすすんでいなかった 国学の発達へ   |
|   | 1792年 ラクスマン(ロシア)根室に来る                                 | <b>国学のおこり</b> (日本のことをもっとよく知ろうという考え)<br>1 契沖(1640~1702)僧侶。確かな本や資料をもとに日本の古い代表的な優れた古典の研究をすすめ、国学発達のもとをつくった。「万葉代匠記」<br>2 荷田春満(1669~1736)古典研究の必要性をとき、幕府にそのための学校建設を進言。賀茂真淵は弟子の一人。「万葉集童蒙抄」<br>3 賀茂真淵(1697~1769)日本の古典、特に万葉集を深く研究し国学の発展に大きな役割を果たす。弟子に本居宣長など。「万葉考」<br>4 本居宣長(1730~1801)賀茂真淵に学んで国学を完成させる。「古事記」の研究で有名。「古事記伝」<br>天皇中心の政治を目指す <b>尊皇論</b> の基になる。 <b>倒幕運動</b> に大きな思想的影響。 |
|   | 1844年 カトリック再伝(パリ外国宣教会)                                |   |
|   | 1853年 ペリーが浦賀に来る                                       |   |
|   | 明治時代  | 1863年 五箇条のご誓文を出す  |
| 1868年 神仏判然の沙汰   |   | 尊皇倒幕理論 新政府誕生 寺院とは=幕藩体制における封建支配の末端機構 仏教勢力一掃  |
| 1870年 <b>廃仏毀釈運動</b>   |   | 全国で徹底した廃仏運動 神道国教化=国家神道へ   |
| 1873年 キリスト教解禁(260年ぶり)   |   | (廃仏毀釈運動の一例)   |
| 大正時代  | 1914年 第1次世界大戦始まる                                      | (例)興福寺は春日大社と分離され、全住僧が春日社の神職にさせられた。無住となった興福寺は荒廃し五重塔は250円で売られることになった。250円は塔を焼いて残った金具を古物商に売るため。しかし、類焼をおそれた住民の反対で免れることに。  |

|      |  |  |
|------|--|--|
| 昭和時代 | 1931年 満州事変<br>1939年 宗教団体法（宗教統制）<br>1945年 太平洋戦争敗戦・日本帝国崩壊<br>1946年 天皇の人間宣言<br>1947年 日本国憲法発布<br>1961年 世界宗教者平和会議<br>1989年 昭和天皇死去 | <b>国家神道 完成から崩壊へ</b><br>祭政一致（明治政府の政治理念） 神祇官の再興 国民教化運動（大教宣布運動） 神仏合併布教 神仏分離の原則崩壊 仏教側の反撃 祭神論争（伊勢派と出雲派の対立） 神道教義の研究の必要性 東京帝大に皇典講究所新設 教派神道は宗教のまま神社神道のみを宗教を超えた国教としての特別の地位に 国家神道の教典「日本帝国憲法（1889）と教育勅語（1890）」<br>国体の教義（古事記と日本書紀を唯一絶対化） 日露・日中戦争 国体教義のファシズム化 八紘一宇教義（他民族侵略教義） 敗戦による崩壊（維新以来80年に及ぶ国家神道崩壊）<br><br><b>崩壊から政教分離へ</b><br>崩壊 ポツダム宣言第10項（信教の自由） 国家神道解体 天皇の人間宣言 神社本庁設立 日本国憲法発布（信教の自由・政教分離） |
| 平成時代 |  |  |

仏教系、神道系、キリスト教系のさまざまな宗教が日本にもたらされてきたり、また独自に発展してきたが、ここでは割愛する。また、エセ宗教、狂信教団もここ20年ほど生まれては消えていったが、それらも割愛する。